

# 平成25年度相双地域医療体験研修（夏期）

～相双は負けない～

## 実施報告書

期日：平成25年8月27日（火）～29日（木）



（相馬野馬追：平成25年7月27・28・29日開催）

福島県相双保健福祉事務所

## 研修概要

8月27日（火）から29日（木）の3日間、「地域医療体験研修（夏期）」を双葉郡川内村、南相馬市及び相馬市において実施しました。

地域医療に関心を持つ医学生6名の参加を得て、地域医療の現場視察や地域医療に従事する医師との懇談、地域住民との交流を通して、東日本大震災により大きな被害を受けた相双地域について理解を深めるための研修を行いました。

## 研修日程表

月／日	時間	内容
8／27 （火）	10：30～11：30	オリエンテーション（福島県立医大）
	14：00～16：30	天山文庫見学（川内村） 川内村の復興状況等の説明、野菜工場視察 国保診療所視察
	18：00～20：00	医療従事者等との懇談会
8／28 （水）	11：20～11：40	震災被災地視察（南相馬市小高区内）
	13：15～14：30	借上住宅住民との交流・ボランティア活動 （南相馬市社会福祉協議会）
	15：15～16：15	公立相馬総合病院視察（相馬市）
	18：30～21：00	医療従事者等との懇談会
8／29 （木）	9：00～11：30	課題研究・発表
	11：30～12：00	震災被災地視察（相馬市松川浦）



8月27日から8月28日にかけて宿泊した旅館「小松屋」



8月28日から8月29日にかけて宿泊したホテル「ふたばや」



移動に用いた貸し切りバス

8月27日（火曜日）

## オリエンテーション



(松田助教)



(説明を聞く学生)



(血圧計の使い方について松田助教の指導を受ける学生)

今回の地域医療体験研修についての趣旨を県立医大松田助教より説明いただきました。

また、2日目の借上住宅住民との交流・ボランティア活動に備えて、血圧計の使い方について指導を受けました。

## 天山文庫見学（川内村）



(阿武隈民芸館の外観)



(天山文庫を見学する学生)



(天山文庫の外観)

## 川内村復興課長の講話



(川内村復興対策課長)



(講話の様子)



(拝聴する学生)

川内村の震災直後から避難を経て帰村宣言し今に至る経緯と、復興の状況について、川内村復興対策課長より講話をいただきました。別事業で川内村を訪問していた長崎大学及び広島大学を始めとした学生の皆様と共に、講話を拝聴しました。

## 野菜工場の視察



(野菜工場の外観)



(実際に栽培を行っている部屋を見ながら、説明をいただきました。)



(実際に生産された野菜を試食する学生)

外部環境に影響されない屋内にて野菜を栽培する野菜工場を視察しました。屋内にて栽培するため放射性物質による風評被害を払拭できるとして期待されています。この工場生産した野菜を福島産として販売するのか、という学生からの質問に対して、「福島県川内村で作った安全な野菜なのだから、福島産として販売する。それによって、福島の復興、川内の復興をPRしたい。」と川内村復興対策課長が話されていたのが印象的でした。

## 川内村国保診療所の佐藤先生の講話



(佐藤先生)



再び川内村国保診療所に戻り、診療所の佐藤先生の講話を拝聴しました。佐藤先生は元々富岡町にて診療所を運営されていましたが、震災当時、町民と共に川内へ避難しその後川内村民と共に郡山市へ避難した際の避難所での医療の現場の話と、帰村した川内村民との医師としての関わりなどについて、先生からお話しを頂きました。

## 医療従事者等との懇談会 (旅館小松屋)



(副村長)



(相双保健福祉事務所 金木所長)



(懇親会の様子)

川内村の旅館「小松屋」において、川内村役場幹部及び診療所医師を招いて懇談会を行いました。また、別事業で川内村を訪れていた長崎大学及び広島大学の学生との交流も深めました。

8月28日（水曜日）

### 被災地視察（南相馬市小高区村上地区）



（堤防が崩れたままの海岸）



（視察する学生）



（津波に襲われたままの住宅）

津波により被災した南相馬市小高区の沿岸部を視察しました。

南相馬市小高区は、平成24年4月16日に原発事故による「警戒区域」が見直され、「避難指示解除準備区域」に指定された地域です。立入が自由化され復旧工事も開始されていますが、堤防が再建されていない箇所や、津波に襲われたままの状態をとどめている住宅など、復旧は道半ばな様子です。

### 借上住宅住民との交流・ボランティア活動（南相馬市社会福祉協議会）



（南相馬市社会福祉協議会の門馬会長の激励を受ける学生）



（参加者の血圧測定をする学生）



（参加者と共にゲームに興じる）



（南相馬市社会福祉協議会が入る原町区福祉会館）

南相馬市社会福祉協議会が実施している借上げ住宅へ入居する被災者を集めたサロン活動へ、ボランティアとして参加しました。

### 公立相馬総合病院視察（相馬市）



（病院見学に先立ち、熊院長の講話を拝聴する）



（熊院長の案内で病院内を見学する）



(公立相馬病院)

公立相馬総合病院を視察しました。始めに熊院長の、震災直後の公立相馬総合病院の対応や、地域医療一般についての講話を拝聴しました。その後、院内を見学し、CTやMRIといった医療機器が設置してある部屋を見させていただきました。

## 医療従事者との懇談会 (ホテルふたばや)



(相双保健所 佐々木所長)



(相馬郡医師会 樋口会長)

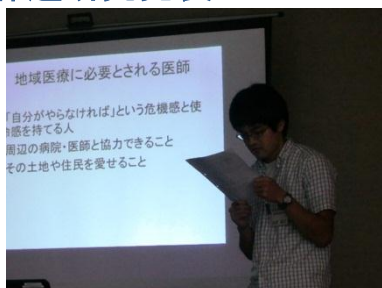


(懇談会の全景)

相馬市のホテル「ふたばや」において、相馬地域の医療従事者を招いて懇談会を行いました。夕食を取りながら、相馬地域での震災後の医療について懇談しました。

## 8月28日 (木曜日)

### 課題研究発表



「今回の研修の感想」や「地域医療に必要とされる医師とは？」などについて、自分で思ったことをスライドを用いて発表しました。発表について医大大谷教授と松田助教より講評をいただきました。

### 被災地視察 (相馬市尾浜地区)



研修の最後に、相馬市尾浜地区の原釜尾浜海水浴場を視察しました。この海岸は津波によるがれきが撤去されていないため、現在遊泳は禁止されています。地震に伴う地盤沈下によりそれまで砂浜が広がっていたところが完全に水没したままであり、また、陸地にもコンクリートのがれきそのまま放置されており、津波の威力を見せつけられる海岸でした。



(平成25年8月27日 天山文庫にて撮影 前6名が参加学生)

## 参加した学生の皆様から、感想を頂きました。

- 私は地域医療に興味はあったのですが、実際の現場の知識は皆無でした。そんな中、学生のうちから参加できるこの体験研修の存在を知り、地域医療と震災の復興の療法を学べるこの相双コースへの参加を決めました。

最初に訪れた川内村では、全村避難時の様子の講義を受け、復興状況の視察をしました。「震災前の状態に戻すのではなく、新しい川内村を作る」という言葉には驚きました。幼稚園・学校の再開や企業の誘致によって生活の利便性を向上させ、住民の帰村に向けて奔走する力強い村民の姿を見て、復興は実現できると確信できました。

川内村から南相馬市へ移動する際、通常の倍の時間がかかりました。というのも、避難区域である富岡町を避けて迂回しなければならなかったからです。川内村のような地域もある一方で、復興に未だ着手すらできていないところもあるのだと痛感しました。

南相馬市では、原発の影響で借上げ住宅に避難している住民の方々と交流しました。そこでは血压測定を行いました、感謝の言葉をいただいたときには医師に近づいているのだなという自覚も芽生えました。普段は離れ離れに暮らしていますが、週に一度集まってお話をしたりゲームをしたりして楽しんでいる様子を見て、私の心も温かくなり、人が住んでいる以上、その地域の医療を崩壊させてはならないという熱い気持ちにもなりました。

相馬市で視察した公立相馬総合病院では、平日夜間や休日を近隣の開業医に診察してもらい、医師の負担を分担して地域全体で住民の健康を守っているという事実を知りました。津波で被災した沿岸部の視察では、壊れた家屋や横転した車が残り、伸び放題の雑草が広がっているという景色を目の当たりにしました。

今回の研修では、テレビで見た映像や、新聞で読んだ記事だけでは分からない、生の現場を体感できました。地域医療に対して淋しく暗いイメージを持っていましたが、今回訪れた病院や診療所の医師や住民の方々は、皆苦勞しながらも充実しているように見えました。地域医療に対する理解が深まった一方で、

新しい疑問も生まれたので、今後もこのような機会があれば参加したいと思います。

- 相双地域は、自然豊かでとても住みよいところだと感じました。1日目に見学させて頂いた川内村は、周りを阿武隈高地に囲まれ、比較的標高の高い場所に位置するため、夏でも涼しく過ごしやすかったです。ここ川内村では原発から20km圏内にあるにもかかわらず、着実に復興に向けて歩みを進めていることが理解できました。放射能汚染や風評を気にせず販売できる野菜工場や、コンビニ、医療施設など生活に必要な社会インフラが整備されていることが分かりました。川内村国保診療所の佐藤先生のお話では、震災直後の医療従事者の懸命な働き、及び、他職種連携の重要性について理解することができました。

2日目に見学させて頂いた小高地区では、震災の被害の大きさを目の当たりにすると共に、原発事故の影響が本当に重大なことを実感しました。続いて訪問させて頂いた借上げサロンでは、被災された方々に直接震災の様子を聞かせていただき、とても貴重な体験でした。血圧測定などの体調管理に加え震災のために崩れてしまった地域のネットワークに変わるコミュニケーションの場も提供する非常に有意義な保健活動を行っておられるのだと感じました。さらに公立相馬総合病院ではホールボディーカウンター体験を行うと共に熊院長先生から震災直後の様子のお話も聞かせていただきました。明確な基準を示して目に見えない放射線の恐怖を取り除き、一致団結して医療サービスを提供する職務を遂行されたことはまさに医のプロフェッショナルリズムを体現しているように感じられました。また「自分が必要とされる地域で働く」という言葉や「地域の医療従事者の高齢化が進んでいる」という先生の言葉が印象的でした。

最後になりますが、この研修を企画してくださった相双保健福祉事務所の方々を始め、引率して下さった福島県立医科大学の先生方々に心から感謝申し上げます。とても有意義な研修で本当に参加してよかったと思えました。ありがとうございました。

- 今回の2泊3日の研修では短い間で多くのことを学びました。特に前々から行ってみたいだった福島の被災地をこの目で見るのができたのはとても良かったです。実際の震災時の様子をその場にいた人から聞くことができましたし、またその時の医療従事者の役割も聞いてよかったです。この経験を今後医学生として、また医者として、生かしていけたらいいと思います。

- 3日間、地域医療体験研修に参加し、川内村、南相馬市、相馬市を訪れて、実際に自分の目で見て、直接聞いて、たくさんのことを学ばせてもらいました。学んだことについて大きくまとめてしまうと、「井の中の蛙」と「百聞は一見に如かず」です。長崎、広島、大阪の方達との懇談会のときに、彼らが放射能のことや福島の地域のことについて熱く語っているのを聞いて、やっと自分が井戸の中にいたんだな、と気づきました。また、長崎大学の学生の「原発や放射能のことについて、がむしゃらに勉強してきたけど、やっと役に立ちました。」という話を聞いて、まだまだ自分にはハングリーな精神が足りない、そしてこの生まれの地福島についてもっと多くのことを知り、自分の言葉でこの地域はこういう地域でこういうよさがある、ということをとくさんの人に伝えることができるようになりたいと思えました。

また、私にとって相馬や川内村、地域医療のことについて、あやふやな知識を持ち合わせていただけであって、この3日間で復興や地域医療のことについて目で見て耳で聞くことによって、あやふやな知識が「自分なりの」体験を通して学んだ、という糧としてのものになったと思います。

最後に、いま、自分は井戸の中から出てきてやっと大海を見た位置にいます。今回の研修は、これから福島の地域についてより多くのことを学んでいこう、と感じるための始めの一歩になったと思います。これからの限られた時間の中で、このような地域医療体験研修などに積極的に参加したり、日々更新されていく情報を得るために高くアンテナを張ったりして、自分のほうから福島のよさ、そして地域医療のことについて学び、広めていくようにしたいです。今回の研修で得た経験は、自分が医師として歩いていくためのヒントを与えてくれました本当にありがとうございました。

- 今回の地域医療体験研修で私が学んだことを2つご紹介します。



1つ目は川内村の復興の現状です。ニュースなどで川内村が帰村したということは耳にしていたのですが、どのような状況なのか、全く知りませんでした。おそらく、放射能被害が深刻で、かなり苦しい生活を強いられているのだろうと考えていました。

しかし、訪れてみると私のイメージと現実は全く異なっていたことが分かりました。企業誘致に積極的に取り組み、土を使わないで栽培する最先端の野菜の研究などとても明るい話題で溢れていました。村全体で「震災からがスタート」をスローガンに日々生きているというお話もとても印象に残りました。副村長さんは、「震災以前の川内村を取り戻すのではなく、新しい川内村を創りたい。」とお話ししておられました。川内村の自然や文化にも触れることができ、とても良かったです。

2つ目は地域に根ざす医師のあり方です。公立相馬総合病院では熊先生からお話を伺いました。先生の「せっかく医師として働くならば、自分が求められているところで働くのがいい。」というお言葉が印象的でした。相双地区は深刻な医師不足に見舞われており、仕事はとても大変だと思います。しかし、そのような地域だからこそ、患者さんは医師のことをとても慕ってくれ、やりがいも非常に大きいと先生は話してくださいました。先生がとても輝いて見えました。私も将来、地域に根ざして、患者さんに慕われる医師になりたいなと強く思いました。

ほかにもこの研修を通して多くのことを学びました、普段の座学では決して学ぶことができないことばかりで見聞が大いに広がりました。他大学の学生と交流できたことも良い思い出です。

皆さん、是非地域医療体験研修に参加してみてください。今、地域医療に興味がある人もない人も、医学の知識がある人もない人も、どんな人でも楽しめる研修です。ふくしまから、はじめましょう。

- 今回は相双地域での地域医療体験研修に参加しました。震災当時の様子や現在の復興の状況を知ることができました。地域住民の方々との交流、病院の視察なども行いました。

また、福島第一原発の20km圏内に入り、海岸へ行きました。あるはずのない場所にある車、1階部分がすっかり抜けてしまっている住宅、止まったままの時計など津波の爪跡を目の当たりにし、まだまだ復興は道半ばなのだと思います。

一方で楽しい思い出もしました。行く先々でおいしい食事をいただいたり、地域医療に携わるの方々との懇談会などもしました。特に、思いがけず長崎大、大阪大、広島大の方々とお話しする機会を頂けたのは嬉しかったです。普段なかなか話すきっかけのない方とお話しするのは楽しさと共に視野の広がる貴重な体験でした。

---

---

平成25年度

平成25年9月

## 地域医療体験研修（夏期）実施報告

編集・発行

福島県相双保健福祉事務所 総務企画部総務企画課

〒975-0031 南相馬市原町区錦町1丁目30番地

電話 0244-26-1326

FAX 0244-26-1332

[http://www.cms.pref.fukushima.jp/pcp\\_portal/](http://www.cms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/)

[contents?CONTENTS\\_ID=14396](http://www.cms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=14396)

E-mail: [sousou.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp](mailto:sousou.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp)

---

---